

平成24年 8月28日
都市整備部田園都市づくり課

平成24年度「歴史のみち景観モデル地区」の選定について

県では、NPO、市等と一緒に旧街道や旧宿場町などに埋もれている歴史的景観資源を保全・活用するまちづくり「歴史のみち景観形成プロジェクト」に取り組んでいる。

今後、地域における景観法の活用等の取組みを推進するため、県では「歴史のみち景観モデル地区」の選定を進める。

○歴史のみち景観モデル地区（平成24年度選定）

平成24年度は中山道に位置する以下の2地区をモデル地区として選定する。

- ・鴻巣宿地区（鴻巣市人形～加美、旧中山道沿線）
- ・蕨宿地区（蕨市北町・中央、旧中山道沿線）

○各地区の現状と目指すべき方向性

【鴻巣宿地区】

- ・鴻巣宿は、人形のまちとしても知られる中山道7番目の宿場町。往時の歴史を偲ばせる寺社や仏閣等が数多く残り、今に歴史を伝えている。これらを活用した中心市街地のまちづくりの検討や歴史的建造物を巡るまち歩きを開催するなど、様々な取組が行われている。
- ・鴻巣市及び「鴻巣郷土史会」と協働し、景観まち歩きイベントを実施する。中山道沿いの市町や地域住民等による景観協議会を組織し、街道の統一感のある景観を保全するための景観協定の策定等を目指す。

【蕨宿地区】

- ・蕨宿は、開設400年を迎える中山道2番目の宿場町。今も趣きのある歴史的建造物が数多く残り、宿場町の面影を残している。
当該地域では「中仙道まちづくり協議会」が「中仙道蕨宿まちなみ協定」を締結し、建築物の外壁の色や屋根の形状を定めたり、歴史的景観資源を「景観建築物」に指定している。市では、協定に合致した事業に対して助成を行うなど、歴史的景観保全の取組みが行われている。
- ・蕨市及び「中仙道まちづくり協議会」と協働し、景観まちづくり講演会や景観まち歩きイベントを実施する。地域の取組の活性化や景観法の制度の活用を目指す。